

# 虎舞はしご50年ぶり新調

陸前高田

## 黒崎神社が例大祭

### 震災の犠牲者を鎮魂

4年に1度行われる陸前高田市広田町の黒崎神社例大祭（実行委主催）は11日、同神社で盛大に行われた。広田町を代表する伝統芸能団体の根岬はしご虎舞組は約50年受け継いできたはしごを新調。2千個の餅まきで祝ったほか、園児や児童、県内外の団体が伝統芸能を披露し、犠牲者の鎮魂と同地区の復興、発展を願った。



約50年ぶりに新調したはしごの上で勇壮な舞を披露する根岬はしご虎舞

「ヨイヤサー」。雨が降る中、息の合った動きで太鼓を打ち鳴らす女性たち。長さ約20尺、高さ約21尺のはしごの先端では、音色に合わせて虎が体を乗り出すほどに力感あふ

れる舞を披露した。舞に使うはしごは練習用が津波で被災。本番用は残ったが、48年間使い続けたため新調を決めた。約250万円の助成金を利用し地元産のスギを使って今年2月から製作した。

鈴木郷貴さん(29)は「雨の影響で思うように演じられなかったが復興への思いを込めて一生懸命踊った」と笑顔を見せた。

前回の2011年は「復興祈願祭」として開催し、山車の運行は行わず地域の郷土芸能

は根岬はしご虎舞のみうに進まず、せめて市民の皆さんを元気づけたかった。あらためて舞や創作太鼓など5祭組が8年ぶりに参加した。10日には神幸祭として地域の漁港や海岸をみこしを持って回り、安全と発展を祈願した。

実行委の津田賀一委員長(81)は「高台移転など復興事業が思うよ

うに進まず、せめて市民の皆さんを元気づけたかった。あらためて舞や創作太鼓など5祭組が8年ぶりに参加した。10日には神幸祭として地域の漁港や海岸をみこしを持って回り、安全と発展を祈願した。